

教育研究業績

2024年 5月 1日

氏名 飯室 淳子

研究分野 高齢者看護学	学位 修士（老年学）
----------------	---------------

研究のキーワード

看護学教育、高齢者施設看護、世代間交流

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 東海大学医療技術短期大学 (1) 講義科目（科目責任者） 老年看護学概論（1年生対象） 老年臨床看護Ⅰ（2年生対象） 老年臨床看護Ⅱ（2年生対象） (2) 実習科目 老年看護学実習（3年生対象） 2) 国際医療福祉大学 老年看護学方法論（3年生対象） 老年看護学演習（3年生対象） 3) 西武文理大学 (1) 講義科目 老年看護支援論Ⅰ（2年生対象） 看護学の動向と課題（4年生対象） (2) 実習科目 老年看護学実習（3年生対象）	2019年4月～2020年3月 2009年4月～2021年3月 2008年4月～2009年3月 2007年4月～2022年3月 2023年4月～7月 2023年4月～5月 2023年10月～2024年1月 2023年11月 2023年10月～2024年2月	老年看護学の3つの講義科目へは、科目責任者以外でも部分参加を含め、在職期間中は全ての科目に関わった。学生からの授業評価で共通して高評価の内容は、「教材（教科書、配付資料、視聴覚など）が適切」「学生の反応や理解度を考慮しながらの授業進行」であった。 老年看護学実習は「介護老人福祉施設実習」と「病院実習」で実施。学生4～5名のグループを担当し、病棟や施設フロアで学生が高齢者のその人らしい生活を支えるために行うケアの支援・指導に関わった。 実習目標の達成度としては、評価表各項目の「良い」評価が占める割合も高く、学生の看護実践を支援出来た結果と考える。 小田原保健医療学部看護学科の老年看護学非常勤講師として、講義6回・演習13回を担当した。 支援論Ⅰでは、老年期を生きる高齢者が健康的な生活を営むための生活機能を整える支援方法の学修に繋がられるように進め、看護学の動向と課題では、認知症看護の動向をテーマに進め、概ね目標到達に至っている。 老年看護学実習は「介護福祉施設実習」と「病院実習」で実施。学生5～6名のグループを担当し、病棟や施設フロアで学生が高齢者のその人らしい生活を支えるために行うケアの支援・指導に関わった。 「2023年度 老年看護学実習評価表」の評価内容に沿って評価を行い、概ね目標到達に至っている。
2 作成した教科書、教材 1) 東海大学医療技術短期大学 老年看護学実習要項・実習記録様式作成 老年看護学実習（学内実習）要領・実習記録様式作成	2007年4月～2022年3月 2020年4月～12月	カリキュラム変更に伴う内容の見直しをはじめ、年度ごとの修正を重ねた。 コロナ禍における臨地実習枠削減分について、模擬患者設定による学内実習の進め方および実習記録の改変を行った。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 2012年度東海大学医療技術短期大学 総合看護研究施設公開講座 実践編講座講師 2) 2013年度東海大学医療技術短期大学 総合看護研究施設公開講座 実践編講座講師 3) 2014年度東海大学医療技術短期大学 総合看護研究施設公開講座 実践編講座講師 4) 2012年度 第38回デンマーク看護研修 副団長 5) 2013年度 第39回デンマーク看護研修 副団長	2012年10月20日 2013年10月26日 2014年10月25日 2012年8月～9月 2013年8月～9月	脳活性と健康生活をテーマに、実践編「いつまでも美味しく食べるために」の講座講師を担当した。 加齢と健康生活をテーマに、実践編「与えよう！脳への良い刺激！！あなたも生き生き脳活性」の講座講師を担当した。 加齢と健康生活をテーマに、実践編「脳を元気にさせるコツ！！」の講座講師を担当した。 デンマークの看護・社会・文化・福祉・医療の実際に触れることを目的に、夏季休暇期間中に第38回39回共に15日間のプログラムで看護研修を実施。研修団の引率副団長として研修期間中の健康および生活管理等を行った。

5 その他				
職務上の実績に関する事項				
事項		年月日		概要
1 資格, 免許 看護婦(現、看護師)免許 厚生労働省認定 看護教員養成講習会(埼玉県)終了		1989年5月31日 2003年3月		
2 所属学会 日本医療・病院管理学会(旧、日本病院管理学会)会員 日本老年社会科学会 会員 日本看護学教育学会 会員 日本看護科学学会 会員 日本老年看護学会 会員		1998年6月 2008年5月 2008年7月 2008年10月 2015年4月		記載全ての学会会員として現在に至る。
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 東海大学 第27回海外研修航海 研修団役員(看護師)		1995年2月~4月		東海大学が所有する海洋調査研修船「望星丸」(遠洋/国際航海旅客船・国際総トン数2174トン)で諸外国を訪問する大学独自の教育プログラムにおいて、引率団役員(看護師)として乗船し、研修学生および乗船員の航海中の健康管理を行った。
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
療養病院実習における臨床実習指導者の指導方法に関する研究—初年度1年間の臨床実習指導者の実習指導状況の分析を通して—(査読付)	共著	2009年2月	第39回日本看護学会論文集 看護教育	第39回日本看護学会論文集 看護教育 p. 364-366 飯室淳子、横島啓子、岡田さとみ、柏木真里子 老年看護学療養病院実習開始にあたり、初めて指導に携わる指導者を対象に、効果的な指導方法を明らかにする目的で実習指導状況の分析を行った。調査にはECTB評価スケールを用いた。結果、学生が実習しやすい環境作り等は積極的に取り組んでいたが、学生自身が考えねばならない記録関連の指導等は苦慮していた。意図的に待つ等タイミングを見極めながら学生自身の思考に合わせた指導が必要である。
老年看護学実習における学生指導のあり方に関する研究—療養病院での学生の実習到達度と臨床実習指導内容における学生・臨床実習指導者評価の比較から—(査読付)	共著	2009年3月	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第17・18号	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第17・18号 p. 20-28 横島啓子、飯室淳子、岡田さとみ、柏木真里子 老年看護学療養病院実習初年度における学生の到達度と実習指導者の実習指導内容について、学生・実習指導者双方に調査を行い比較検討した。調査には実習行動目標項目とECTB評価スケールを用いた。結果、人間関係構築や看護場面での直接的な指導内容は高い評価であったが、記録指導や助言のタイミングなどに課題が見られ、教員と共に学生の考えを発展させられるような関わりが必要である。
経験年数別手術室看護師の職業性ストレスおよび業務疲労の関連について—二交替制勤務導入前の業務実態から—(査読付)	共著	2009年4月	第39回日本看護学会論文集 看護管理	第39回日本看護学会論文集 看護管理 p. 381-383 横島啓子、湯浅尚子、飯室淳子 手術件数の増加しているA病院において、手術室看護師の職業性ストレスと業務疲労の実態を明らかにする目的で質問紙調査を実施。手術室看護経験年数が少ない看護師のほうが疲労度や不安等の精神的ストレスも高い傾向を示していた。
学生が看護場面で捉えられるメッセージ(査読付)	共著	2010年2月	第40回日本看護学会論文集 看護教育	第40回日本看護学会論文集 看護教育 p. 107-109 大橋和枝、田中初枝、土江順子、飯室淳子 臨地実習において学生は、患者が発するメッセージを教員が期待するほど捉えきれずにいる傾向があり、初学者である学生が、患者から汲み取ることが難しい非言語的なメッセージを明らかにする目的で学生に調査を実施。学生が捉えたものの9割以上が看護師の発言であり、患者の非言語的メッセージへの着目はなかった。

<p>老年看護学療養病院実習における指導者の自己評価－ECTBによる評価、初年度と2年目の比較－（査読付）</p>	<p>共著</p>	<p>2010年2月</p>	<p>第40回日本看護学会論文集 看護教育</p>	<p>第40回日本看護学会論文集 看護教育 p.176-178 飯室淳子、横島啓子、岡田さとみ、柏木真里子 実習2年目における指導者の実習指導内容について、初年度と2年目の実習指導状況の違いを明らかにする目的でECTB評価分析を行った。記録指導のタイミングや指導内容等については、初年度より2年目のほうが有意に上昇したが、文献活用については2年目のほうが有意に減少していた。</p>
<p>老年看護学療養病院実習における学生到達度および臨床実習指導者の指導内容の評価－2年目の学生指導方法の取り組みによる評価－（査読付）</p>	<p>共著</p>	<p>2010年3月</p>	<p>東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第19号</p>	<p>東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第19号 p.9-20 飯室淳子、横島啓子、岡田さとみ、柏木真里子 実習における学生の到達度と指導者の指導内容について、2年目の学生指導方法の取り組みによる評価から、今後の指導上の課題を明らかにする目的で質問紙調査を実施。初年度の結果を基に2年目の指導に取り組んだ介入前後の比較より、患者の退院後の生活支援のイメージ化や記録関連等については評価上昇に繋がっていた。今後は文献活用についてや記録学習時間の確保等、更なる実習環境調整が必要。</p>
<p>回復期リハビリテーション病棟におけるFIM評価の活用－看護計画へFIM評価結果を反映させるための取り組み－（査読付）</p>	<p>共著</p>	<p>2011年3月</p>	<p>第41回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ</p>	<p>第41回日本看護学会論文集 成人看護Ⅱ p.252-254 横島啓子、飯室淳子、甲斐順子、寺嶋文、高良美佳 看護師が正しくFIMを理解できているか、勉強会前後の比較と継続的にFIM評価を行うか行わないかの比較から調査した。正答数は勉強会後では平均正答数が増えていたが、介入群と対照群間に正答数の有意差はなかった。得点の誤差は8項目で少なく3項目で大きくなっていった。勉強会前のFIMテスト実施は対象者のレディネス把握として効果的であり、FIM評価を継続的に行うことで患者のADL向上の実感などが理解できていた</p>
<p>夜間体験実習の教育内容の検討－初回夜間勤務における新人看護職員の不安内容との関連－（査読付）</p>	<p>共著</p>	<p>2011年5月</p>	<p>第41回日本看護学会論文集 看護管理</p>	<p>第41回日本看護学会論文集 看護管理 p.133-136 飯室淳子、横島啓子、土江順子、成田美智江、田中初枝 夜間実習経験が卒業後の初回夜間勤務に及ぼす影響として、夜間実習経験の有無にかかわらず、新人看護職員の9割以上に初回夜間勤務への不安がみられた。「夜間実習経験」と「夜間勤務への不安・心配」との間の有意な関連はなかったが、夜間勤務への不安・心配がない人の理由に「夜間実習の経験」が挙がっていた。今後は、夜間実習中の経験内容の詳細調査や夜間実習目標の精選など、夜間実習の教育内容の更なる検討に繋げていく。</p>
<p>（その他） コロナ禍における学内実習の実際～シミュレータ（一般的全身型モデル人形）を用いた模擬患者への看護計画実施・評価</p>	<p>単著</p>	<p>2021年1月</p>	<p>臨床老年看護</p>	<p>臨床老年看護、28巻1号、p.56-62 コロナ禍で従来の臨地実習計画の変更を余儀なくされる状況下において、学内登校が可能であることを最大限活かした実習室での技術演習方法を検討・実施した。所有する一般的全身型モデル人形の活用は、演習時の感染予防策の一助ともなり、学内実習に実践演習を取り入れた方略は概ね肯定的な評価に至った。今後は、自宅での遠隔実習形式で可能な演習内容を吟味し、臨地実習の更なる制約にも対応出来るように整えていく。</p>
<p>Web出張！高齢者ケアの教師塾／今、必要とされる教材としての事例の作成と活用のしかけ</p>	<p>共著</p>	<p>2022年8月</p>	<p>日本看護学教育学会第32回学術集会</p>	<p>日本看護学教育学会第32回学術集会講演集 p.109 牛田貴子、梅原里実、中澤美弥、飯室淳子、 Web開催の交流セッションにおいて、「老年看護学実習オリエンテーションに事例を活用するねらい」について発表。Web参加者と意見交換を行った。</p>